

県P役員を受けて感じたこと

監事 井上直樹



私が県Pに参加し始めたのは、まだコロナ禍の残る2021年、「どうせやるなら積極的」に、そんなスタンスで関わり始めました。

私の好きな言葉は「子ども達や未来のために」「常に自分ごととして考える」「慣例や忖度に負けずに」「そんな想いを実現するため時間をやり繰りして会議に参加し、積極的に意見を出してきました。良いところを残しながらも時代に合わせて変わることが求められているPTA。栃木県内の各地区でも様々な困りごとを持ついたり、工夫しながら運営したり、みんなが「何とかせねば」という想いで活動されている状況も感じています。

PTAに関わる仲間のために、そして本会の方針である「子どもたちと同じ目線で向かい合い全ての人が笑顔になるPTA」を目指すために、皆さんと連携しながら自らの課題を見つけて提言をするのが私の役目だと考えていて、残りの1年間、今後とも微力ながら貢献出来るように取り組んで行きたいと思っています。

情報委員会だよりQ&A

Q1 栃木県PTAってどんなところ？

A1 各市町PTAの代表が理事となって子ども達のためにまたは市や町の会員のために県全体への働きかけや行政へのアプローチをしています。また保護者が学べる機会が増えます。

A2 県PTAは栃木県全体のPTA会員のために勉強会や講演会などを企画・実施し、また市町PTAの意見や要望をさらに上に伝える役割を持つ団体です。一方、市町PTAは学校や地域、家庭の連携を深め、情報交換、会員研修などを行う団体です。

Q2 県PTAと市町PTAの違いってなあに？

Q3 県PTAの情報委員会って何をしているの？

A3 栃木県PTAの広報紙である、とちぎPTA新聞を編集したり、単位PTA向けの広報紙編集講習会を企画、実施したいと思っています。

Q4 栃木県PTAの揚石哲司会長と揚石達也副会長、どちらも同じ「アゲイシ」だけど親戚なのかな？

A4 生き別れた親子だと思っていたが、、DNA鑑定の結果、赤の他人だと判明しました(▽;)。

